

# Marshall MG2CFX

## 小音量でも迫力のあるサウンドで練習しよう!

自分の好みのサウンドを作るにはギター・アンプを使いこなすことが非常に大切です。そして、ギター・アンプを使いこなすには普段からアンプに触れておく必要があります。ギター・アンプはギターの音を増幅して出力する機材。しかし、ただ音量を大きくすれば良いわけではなく、好みの音に加工するのもギター・アンプの役割。だからこそ、ギタリストにとってアンプは楽器であり、大切な相棒なのです。

### アンプの王様

世界中のメーカーがそれぞれ特色を持ったギター・アンプを発売し、数え切れないほどの種類のギター・アンプが存在していますが、その中でも「マーシャル」は特別な意味を持ったブランドです。ギターを弾いている人でなくても、その名前を聞いたことがある人は多いはず。キング・オブ・ギター・アンプとして数々のギタリストのサウンドを支えてきたマーシャル、まずはその歴史を簡単に振り返ってみましょう。

マーシャルが誕生したのは1962年。「JTM45」というモデルでスタートしています。マーシャルの創設者であるジム・マーシャル氏は実はボーカリスト/ドラマーで、1960年初頭にロンドンでドラム・ショップをオープン。そのお店を訪れたリッチー・ブラックモアやビート・タウンゼント(ザ・フー)といった名ギタリストたちからのリクエストでギター・アンプも扱うことになりました。その後、フェンダーのBassmanという人気モデルをベースに作られたのがJTM45です。そして、ビート・タウンゼントのリクエストを受けて作られたのがキャビネット2つと、その上にアンプを重ねる3段積みスタイル。ロックの代名詞にもなったマーシャル・ウォール(ギタリストの後ろに、まるで壁のようにアンプを積みこく)は、こうして生まれたのです。

その後もJCM800、900、2000、JVMと、次々に製品が発売されていきます。これらのアンプはリハーサル・スタジオやライブハウスでも馴染み。所有している部活動も多いことでしょう。マーシャルの歴史はロックの歴史であり、「音を歪ませる」という今では当たり前前のサウンドを作り出した会社はギター・アンプの歴史を語る上で、決して欠かすことができない存在です。

### 小さくてもマーシャル

アーティストのライブ映像やリハーサル・スタジオなどで見かける巨大なスタック・アンプ。サウンドはもちろん、見た目もカッコイイですが、とてつもなく大きな音が出るので、自宅での使用はあまり現実的ではありません。フルの音量で鳴らすには、相応の設備が必要です。また、スタック・アンプは高価なので個人で所有したり、部員の数だけ揃えるのにも難しいものがあります。多くの場合は小型アンプを使うことに

なるとは思いますが、そこでオススメしたいのがMG2CFXというモデルです。

皆さんは小型アンプにどのようなイメージを持っていますか。「小さいアンプは音が良くない...」と思っている方は少なくないと思います。しかし、MG2CFXはそういった従来の小型アンプとは一線を画す、パワフルなサウンドが持ち味。最近ではデジタルで、実在するアンプのサウンドを「真似た」モデリング・アンプが多い中、MG2CFXは100%アナログ回路。煌びやかで音に芯があり、大型スタック・アンプをそのままダウン・サイジングした音と表現することができます。アンプのパワーとしては2Wと非常に小さく、マーシャル・アンプの中でも最小サイズに分類されます。スピーカーは6.5"とスタック・アンプで使われているもの比べると約半分のサイズしかありませんが、実際に飛び出してくるサウンドからは一切、そんなことを感じさせません。こんなにコンパクトなアンプでも、世界を魅了するマーシャル・サウンドのDNAがしっかりと受け継がれているのです。

### MG2CFXのパネルを見てみよう

MG2CFXのパネルは4つのつまみと非常にシンプル



電池駆動も可能でコンパクト! 普段の練習にピッタリなMG2CFX。カーボン調のボディがクールです。価格: オープン

ですが、それぞれのつまみには太文字と細文字の2種類のパラメーターの名称が描かれています。細文字のパラメーターは「TAP/SHIFT」ボタンを押しながら回すことでアクセス可能。つまり、つまみは4つしかありませんが、実際には8つのパラメーターを使って音を作ることができるのです。では、各パラメーターの働きを見ていきましょう。

「MODE」つまみは大まかなサウンド・キャラクターを選択します。例えば、一番右側のCLEANの位置にすれば、その名の通り、パンチの効いたクリーン・サウンドが得られ、そのまま上げていくとクラッチ、ハイ・ゲインといった具合にキャラクターが変化していきます。

MODEで選択したサウンド・キャラクターの歪みを調整するのが「GAIN」つまみです。ここで基本となるサウンドを作っていくわけですが、クラッチでGAINを上げた場合とOD1でGAINを下げるなど、MODEとの組み合わせによって多彩なサウンドを作り上げることができます。MODEの裏パラメーターである「BASS」では低域の質感のコントロールが行えます。つまみを上げていくことで低域が強調され、太さや甘さといった要素が追加されていきます。また、GAINの裏パラメーターである「TREBLE」では音の高域成分を調整します。下げめにすれば柔らかな、上

げていくと音抜けの良いブライトなサウンドを作ることができます。

次は「FX」です。このつまみではコーラス/フェイザー/フランジャーという3種類のモジュレーション・エフェクトを設定することができます。1つのつまみでエフェクトの種類とかかり具合を調整可能で、例えば、コーラスの範囲の中でも下側では緩やかな効果が、上げていくと深いコーラス効果が得られるのです。裏パラメーターは音に残響を加えることができる「Reverb」です。つまみを回していくほどに残響が大きくなり、広いステージやホールで演奏しているかのような臨場感を味わうことができます。

「Volume」つまみではアンプ全体の音量を、裏パラメーターの「Delay」では山びこ効果を再現するディレイ・エフェクトのかかり具合を調整します。

さらに、裏パラメーターを操作するための「TAP/SHIFT」ボタンを3秒以上長押しすることで、チューナー・モードが利用可能。本体右側のディスプレイに音程が表示され、スイッチ両側のLEDライトに

よってフラットなのか、シャープしている状態なのかを判別することができます。チューニングが合えばTAPスイッチが点灯するので、視覚的にチューニングが行えます。また、スイッチを複数回押すと、ボタンを押すタイミングによってディレイ・タイムを設定することが可能。この機能を使えば、曲のテンポにピッタリ合うディレイ効果を簡単に作ることができます。なお、本体背面にはMP3プレイヤーなどを接続できるAUX入力端子や自宅での夜間練習に便利なヘッドホン端子も搭載されています。

### さらに魅力的な上位機種 MG15CFX

もう少し音量が出せる場合には上位モデルのMG15CFXがオススメ。このモデルは、それぞれのパラメーターに専用のつまみを用意することで操作性を向上。エフェクトにはオクターバーが追加されています。また、パラメーターの位置をプリセットとして保存できるなど、便利な機能が満載です。



各パラメーターにつまみが用意されているMG15CFX。価格: オープン

## セッティング例

### クリーン〜クラッチ・バックキック



バックキックで使いやすいクラッチ・セッティング。MODEはCRUNCHで、GAINを抑えめに設定することで、バックキックの強弱で歪み具合を調整することができます。EQはBASSを上げめにセッティングし、太さを強調。マーシャルと言えば歪みが魅力ですが、ゲインを絞ってコーラスとディレイを組み合わせることで、ポップスのバックキックやアルペジオ奏法で多用される美しいクリーン・サウンドを作ることができます。

### ハイゲイン・バックキック



モダンなハイゲイン・バックキック用のセッティング例。激しい歪みのOD2はパワー・コードやブリッジ・ミュートと相性抜群のメタル・サウンドを簡単に作ることができます。EQはTREBLEを上げめにして抜けの良い音を実現。TREBLEを上げて、耳に痛いようなギラギラとした音になりにくい点もMG2CFXのポイントです。コーラス・エフェクトと組み合わせれば、音の厚みも自由にコントロールすることができます。

### ハイゲイン・リード



ハイ・ゲインのリード・セッティング。バンド・サウンドの中でもしっかりと主張できるように、バックキックよりも歪みを抑え気味に設定。EQはTREBLEを下げ、BASSを上げることで存在感のある音を作っていますが、使用するピックアップによって微調整してみてください。エフェクトではリバーブは軽めで、その分、しっかりとディレイをかけています。TAP機能を使うことで、頭の中で描いた通りのディレイ・サウンドを作り上げることができます。